

一般社団法人室内環境学会 2024 年度 第 1 回臨時理事会議事録

日 時：2024 年 3 月 1 日（金）9:00～12:30

場 所：事務局会議室／オンライン会議室

出席者

理事：東賢一（理事長）、中島大介、鍵直樹、橋本一浩（事務局長）、小栗朋子（会計）、高木麻衣、

三宅祐一、森田洋、篠原直秀、柳宇、萬羽郁子、徳村雅弘

事務局：野村佳緒里、色摩操

監事：湯懷鵬、齊藤智

オブザーバー：佐藤博

欠席：嶋崎典子

本理事会は総理事数 13 名のうち過半数である 12 名が出席していることから、定款第 34 条により成立した。また同第 33 条により、本理事会の議長は東理事長が務めた。

議事次第：

1. 2024 年度第 1 回通常理事会議事録 → 承認された。

2. 学術委員会報告・審議

高木委員長より、環境過敏症分科会のメンバーが中心となって取り組む「小学生・中学生・高校生・大学生の香害および環境過敏症状に関する実態調査」の実施に当たり、当学会を協力機関として研究計画書等に記載し活動したいとの申し出があった。審議の結果、「後援」として協力することとなった。

また、2024 年度室内環境学会調査研究助成金は 4 月に公募開始すると報告された。

3. 表彰委員会報告

篠原表彰委員長から、「一般社団法人室内環境学会賞 表彰基本規程」の案が示され、新たに作成された各賞の内規案も示された。条項番号の訂正、受賞者対象年齢の微修正がその場で指摘され、各内規は承認された。また、表彰委員会とは別に「表彰選考部会」を新設すると説明があり、内規案が示された。各賞の審査は表彰選考部会が担当し、表彰委員会は表彰に関わる庶務を担当することのこと。なお、論文賞選考委員会は表彰選考部会が新設されると同時に廃止となる見込み。

4. 将来構想 WG 報告

鍵副理事長より、学会収支の課題について資料が示され、学術大会の収益に依存していること、安価な事務局運営費に依存していることが課題と説明され、会費の増額（他学会に比較して安価）、学会誌発行費の削減（完全電子化）など現状で考えられる対策について徐々に着手していくべきと指摘された。また、事務局運営費については将来的な高騰が想定されることから、徐々に適正価格に調整していくべきと、理事長・副理事長から述べられた。

森田出版委員長からは、学会誌の電子化について出版委員会内でも検討が始まっていると返答があった。また、若い世代ほど電子文書への抵抗がないことから、学生会員については早期に冊子発行を停止し、電子版の提供のみにしても良い、との意見も出席者から出された。

萬羽広報委員長からは、委員の負担が少ない持続可能な HP 運営を目指し、外部委託の検討もしているとの発言もあった。

5. 新規 WG 設立

篠原理事より、令和 6 年能登半島地震の発生に伴い「能登半島地震に関連した室内の温熱環境・空気質の改善に関する WG」を設立したと報告があった。避難所などの被災地の施設において、温熱・空気質環境の改善に取り組むとのこと。WG 活動費の予算は 20 万円であったが、さらに 10 万円を追加することが承認された。

6. 2023 年室内環境学会学術大会報告

徳村大会長(2023 年)より、2023 年学術大会の収支報告があった。最終的に 316 名の参加者、21 社の展示広告があり、147 万円の黒字となったとのこと。また、次年度の実行委員会への引継ぎ事項が説明された。

7. 2024 年室内環境学会学術大会の準備状況

鍵副理事長より、2024 年学術大会の準備状況が説明された。なお、今大会にて 30 周年記念シンポジウムを執り行うことが正式に決定され、事業委員会が中心となって記念シンポジウムの準備を進めることとなった。

8. その他

- ・事務局より 2023 年 11 月～2024 年 2 月の入会承認者 7 名（法人会員 1 社、正会員 6 名）のリストが報告された。また、最近の入会希望者 1 名（正会員 1 名）のリストが示され承認された。
- ・会員動向として、2024 年 2 月 27 日時点で正会員 369 名、法人会員 57 社（団体）、学生会員 62 名、シニア会員 9 名であると報告された。
- ・九州支部では恒例の研究発表会を 3 月に予定している（佐藤九州支部長）。

以上

署名欄

東 賢一

印

中島 大介

印

鍵 直樹

印

橋本 一浩

印

小栗 朋子

印

高木麻衣

印

三宅祐一

印

森田 洋

印

柳 宇

印

篠原直秀

印

萬羽郁子

印

徳村雅弘

印

嶋崎典子

印